

校長	教頭	主幹	主任	係

校報 まきがね

恵那西中学校だより 第2号
令和8年 4月24日（金） 発行



「当事者意識」

校長 工藤 博也

先日命を守る訓練を実施しました。生徒たちは落ち着いて行動し、素早く避難することができました。事前の指示をよく聞いて、緊張感をもって動くだけでなく、周りの友だちの様子を気にかける姿も見られ、大変心強く感じました。

避難の際には「早く行動すること」が大切ですが、訓練を通して特に大事にしたいのは、「自分で考え、どう動くかを決める」ことです。今回は火災を想定した訓練でしたが、実際の災害は同じ状況が二度と起こることはありません。その時々で、自分の身の安全を考え、周りの様子を見ながら行動する力が、命を守ることに繋がります。

もし地震などで大きな被害が出て、避難所が開設されるような事態になった場合、中学生には、年下の子に声を掛けたり、困っている人を手助けしたりするなど、周りを支える役割も期待されます。そのために大切になるのが、「当事者意識」です。これは、「自分には関係ない」と考えるのではなく、「今、自分にできることは何だろう」と考えて行動しようとする気持ちのことです。

文部科学省でも、子どもたちがこれからの社会を生きていくためには、知識だけでなく、自分で考え、周りの人と協力しながら行動できる力が必要だとしています。命を守る訓練は、そうした力を実際の行動を通して学ぶ、大切な機会です。

この当事者意識は、防災の場面だけでなく、日々の学校生活にも生かされていきます。授業に前向きに取り組むこと、学級や委員会での自分の役割を果たそうとすること、友だちの気持ちを考えて行動すること——これらすべてが、当事者意識につながっています。

本校では、命を守る訓練を一度きりの行事で終わらせるのではなく、そこで育まれた気付きや学びを、学校生活全体に広げていきたいと考えています。子どもたちが「自分も大切な一人」と感じながら、安心して成長していけるよう、今後も取り組んでまいります。



■■■休日はプラスのエネルギーを■■■

まもなくゴールデンウィークを迎えます。休日は、ただ疲れを取るための「マイナスをゼロに戻す時間」ではなく、自分の心や体を前向きに整え、力を蓄える「プラスにする時間」であってほしいと願っています。ゆっくり休むことはもちろん、家族との時間や好きなことに取り組む中で、心に余裕をもって過ごしてほしいと思います。連休明けには、5月病をものともせず、元気に学校生活を送る子どもたちの姿に会えることを楽しみにしています。